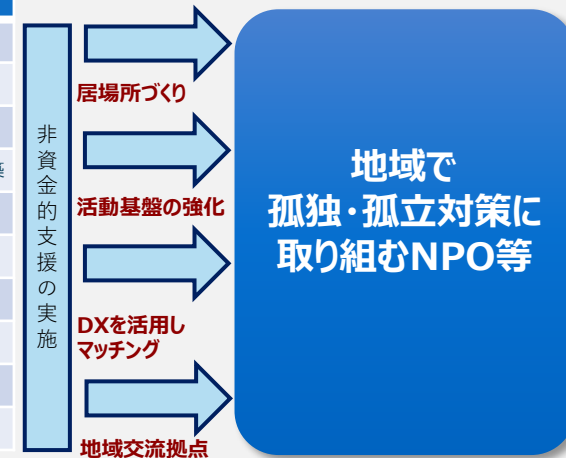


令和5年度 孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査

事業の概要 NPO等活動を熟知した中間支援組織による孤独・孤立対策に取り組むNPO等の運営能力の向上や活動基盤整備のための支援モデルを構築し、全国展開を図る。中間支援組織は、地域で孤独・孤立対策を行う中小規模のNPO等への非資金的支援を実施^(注)し、取組成果や支援ノウハウ、課題等をとりまとめ、内閣官房に報告する。(注) 一つの都道府県域を超えて活動する事業が対象

採択団体 (孤独・孤立対策に取り組むNPO等を対象に、運営支援や人材育成、ネットワーク構築等の活動を行う非営利団体)

	採択団体名	実施事業名
1	認定NPO法人フローレンス	社会全体で親子にエールを贈る物資等マッチングプラットフォームの構築・基盤整備
2	認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ	アートによる社会包摂を通じた「福祉を超えた」協働モデルの構築
3	一般社団法人全国フードバンク推進協議会	フードバンク団体を起点とした、ケアリーバーへの支援スキームの確立
4	一般社団法人RCF	食支援による居場所提供を通じた、自治体・NPO・社協・民間団体等による連携組成或いは強化策の構築
5	社会福祉法人大阪ボランティア協会	関西2府3県の中間支援組織の英知を結集したコンソーシアムによる支援モデルの構築
6	NPO法人市民ネットすいた	府県域をまたぐ生活圏域をベースとした中小NPOの活動基盤強化支援モデル構築
7	NPO法人北海道NPOサポートセンター	切れ目のない孤独・孤立対策のための多様な社会資源ネットワーク及び居場所機能強化事業
8	一般社団法人えんがお	「居場所づくり」に特化した創業支援
9	公益社団法人全国公立文化施設協会	劇場等文化施設を活用した孤独・孤立対策のための地域交流拠点の整備
10	一般社団法人気仙沼まちづくり支援センター	地域の居場所づくり活動ネットワーク化事業



中間支援組織の必要性

- 中間支援組織は、現場の最前線で活動する団体を俯瞰的・客観的にとらえ、自団体単独では気づきにくい強み弱みを再認識させることができる。
- それぞれの団体は活動推進上の課題を抱えており、中間支援組織が伴走しつつ、中間支援団体が構築したシステムやノウハウを提供することで、活動を効率的・効果的に推進することができるようになる。
- 地域の担い手の発掘や分野を超えたネットワークを形成し、団体同士が支えあう土壌をつくることができる。

中間支援組織の支援の効果

1. 事業基盤の強化
団体の強み弱みやニーズに応じた伴奏支援と支援のモデル化による団体の意識改革や人材育成、事業推進力の強化、ノウハウの獲得・蓄積
2. ネットワークの形成
他分野を含め団体同士で情報交換ができる仕掛けづくりや場の提供による顔の見える関係性の構築
3. 業務の効率化
デジタルプラットフォームの提供による現場の支援業務の効率化
4. 孤独・孤立対策の機運醸成
各地の意欲ある団体の掘起こしや関係団体への働きかけによる孤独・孤立対策の機運醸成

中間支援組織の支援推進の課題

- 中間支援組織の存在意義（定義や役割）、支援の手法の形式化・見える化や支援の成果が明確になっていない。中間支援組織の基礎的な支援手法やノウハウの開発、伝え方、人材育成が必要。
- 中間支援の仕組みを維持するには、財源の確保が必要となる。そのためには、社会的理解や合意形成が必要であり、特に行政に中間支援組織の必要性を理解してもらうことが必要。
- 中間支援組織が自治体との連携により機能を発揮する上で、孤独・孤立対策に庁内関係部署が横断的に対処し、中間支援組織をバックアップできる体制を構築することが必要。

孤独・孤立対策は、日常生活の様々な場面において、人と人が緩くつながっていくことが必要であり、あらゆる分野で取り組みを進めることが必要。そのためには、NPO等の民間団体の役割は重要であり、社会課題解決に資する取り組みを可視化しつつ、支援することが必要である。中間支援団体による団体への非資金的支援の取組は、中間支援団体が構築しているシステムやノウハウを有効活用することができ、団体の育成、支援につながるるとともに、地域における多様性に富んだ孤独・孤立対策の推進につながるものである。

推進の強化
取組の可視化
機運醸成